

元気なコミュニティ特選団体

岩手県では、人口減少・少子高齢化に向き合い、地域力の強化に取り組む県内のモデルとなるコミュニティ組織を年1回選定しています。今年度は盛岡市から5団体が選定されましたので、その団体を紹介します。

また、盛岡市では元気なコミュニティ特選団体に選定された団体に対し、（一財）自治総合センターの助成事業（宝くじ助成）の申請順位が高くなるよう加点を行うといった優遇措置を講じています。

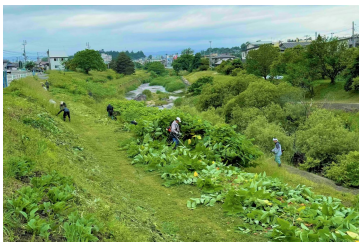
【特定非営利活動法人 本州産クマゲラ研究会】



残雪期の秋田県
の山中において、
クマゲラの繁殖状
況の調査を行う様
子

国の天然記念物であり、絶滅危急種にも指定されている本州産クマゲラ個体群の生息・生態調査を行っています。本州（北東北三県）に生息するクマゲラの生態解明と、それを取り巻く自然環境の保護・保全を目的に、現地調査や講演会などの活動をしています。

【沢田町内会】



地域住民が協力して、築川沿いの草刈りや、ごみ拾いを行っている様子

地区内を流れ、昔から清流として市民の飲み水にも活用されてきた築川の美化を図るため、草刈りやごみ拾いといった環境美化活動に町内会を挙げて取り組んでいます。これらの取組により、夏にはホテルが飛び交う姿が見られるといった成果に繋がっています。

【特定非営利活動法人 未来図書館】



市内の中学校の授業において、子ども達と大人がお互いに学び合う様子

学校等において、子どもたちと大人が語り合い、そして、お互いに学び合える場を提供しています。多様な生き方や価値観を持つ大人たちと語り合うことで、子どもたちが自分の将来について考え、自分らしく幸せに生きるヒントを得る機会づくりに取り組んでいます。

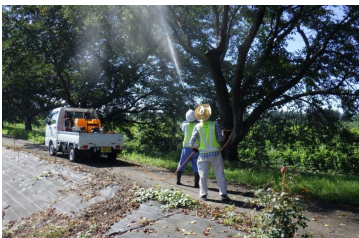
【特定非営利活動法人 いわてグリーンサポート】



盛岡で一人暮らし
するシニアを、最
後まで支え続ける
NPO法人

少子高齢化が加速する現代において、特に単身高齢者の身寄り問題が深刻な状況になっています。当市民団体は20年以上前から活動を通じ、「地域社会から、誰一人取り残されぬよう安心して暮らせるバックアップ支援活動」をしています。

【田中自治会】



地域の環境美化活動にも力を入れています（写真は桜並木の防虫処理をしている様子）

「未来へつなぐ交流プロジェクト」をキャッチフレーズに、世代ごとの交流事業のほか、様々な世代が集まって地域の未来について語り合う場を設けるなど、住民同士の交流に力を入れています。今後も田中地区に住み続けたいと思えるような地域づくりに取り組んでいます。

[illegible]

人と人がふれあうまちづくり
～巻堀地区民運動会～



9月1日（日）、盛岡市立巻堀小学校（巻堀12-1）において巻堀地区民運動会が開催されました。主催は巻堀小学校区教育振興協議会。

同事業は54回目の開催となります。昨年度より地区民一同で楽しむために盛岡市立巻堀小学校（児童数8名）と共に合同運動会として開催しています。

当日は、台風の影響が心配されましたが、天候に恵まれ、同校の児童と地域の大人と一緒に走る徒競走や年代別リレーなど様々な競技が行われ、会場には終始参加者の笑顔が溢れていました。

参加者からは「子どもたちと一緒に競技をすることができてとても楽しかった」という声が挙がるなど、同事業は年代問わず地域住民が一同に集まり、相互の親睦を図る場となりました。同協議会では今後も冬季にスノーフェスティバルなど地域住民の親睦を深める各種行事の開催が予定されています。

2地区の地域拠点施設が新しくなりました！

この度、地域拠点施設である「みたけ地区活動センター」と「加賀野地区活動センター・児童センター・老人福祉センター」が、盛岡市公共施設保有最適化・長寿化中期計画に基づく大規模改修工事等により、装いを新たにしました。みたけは10月1日(火)、加賀野は11月6日(水)にそれぞれ落成式を執り行い、地域住民や利用団体など多くの方々の御参加のもと、テープカットなどのセレモニーを行い、工事の完了を祝いました。

みたけ

昭和58年に開設したみたけ地区活動センターは、建築後40年を迎えたことから、令和5年12月から令和6年9月までの間、大規模改修工事を実施し、10月1日から供用開始となりました。

今回の工事では、エアコンや階段昇降機の設置、間取りの変更などにより利便性の向上を図るとともに、建物の設備や部材を更新し、長寿命化を図りました。

【みたけ】
新設した階段昇降機▶



◀【みたけ】
落成式の様子



加賀野

旧盛岡市立高校体育館を活用し、昭和58年から開設した加賀野地区活動センターは、令和4年6月から令和6年10月までの間、建替工事を実施し、また、同一敷地内にある児童センター・老人福祉センターの大規模改修工事と併せて、建物を渡り廊下で接続する複合化工事を実施しました。

今回の工事では、地区活動センターに集会室と料理実習室を新たに整備したほか、児童センター・老人福祉センターは、エアコンの設置や渡り廊下からの動線を考慮した間取りの変更などにより利便性の向上を図るとともに、建物の設備や部材を更新し、長寿命化を図りました。

さらに、外構工事においては、解体を行った旧地区活動センター跡地に、館庭、遊具、テニスコート、駐車場を整備しました。

▼【加賀野】
完成後の様子(左：建物、右：外構)



【加賀野】
落成式の様子▶



地域の危険を歩いて確認 令和6年度 杜陵地区防災ウォーク

10月24日(木)、杜陵地区福祉推進会(岩野光進会長)及び盛岡市社会福祉協議会は、令和6年度杜陵地区防災ウォークを開催しました。

午前には、参加者約50人が盛岡市立杜陵児童センター近くの北上川土手に集合し、地震や洪水時に危険となる場所を確認しながら歩きました。その後、岩手県地域防災サポーター・防災士の荒屋敷武則氏の講話、防災食の試食を行いました。

参加者は、マンホールや縁石など身近な場所にも災害時には注意が必要であることや、地域の危険を把握することで、自分や周りの人の命を守る

行動につながることを学びました。

午後からは「話そう！わたしたちの地域防災」と題した懇談会が行われ、参加者は各町内会での防災の取組紹介や今後に向けたアイデアなどの意見交換を行い、防災の意識を高め合う一日となりました。



コロナの影響により開催を延期しており、今回初めての開催となりました！

“世界につながるまち盛岡”市民会議推進イベント



命を守る行動を考える

“世界につながるまち盛岡”市民会議(岩山徹会長)は、10月6日(日)、プラザおでつて(中ノ橋通一丁目)において、推進イベント「みんなで備える 守ろういのち ～防災について考える～」を開催し、講演や展示を行いました。

講演では、はじめに「東日本大震災の記憶 ～語り部から～」と題し、語り部活動をしている阿部朝子さん、中澤恵子さんが、もりおか復興支援センターの前田達明さんの進行のもと、インタビュー形式により、東日本大震災の経験や教訓を語りました。

中澤さん、阿部さんから、避難所での苦労を踏まえた防災グッズの紹介や、被害を受けた地域の神楽復活に向けた強い思いなどが話され、来場者は、伝えていくことの大切さや、日頃の備えの重要性を再認識しました。



次に、防災システム研究所 所長 山村武彦氏による、「災害に備え、私たちにできること ～災害事例に学ぶ防災・減災・危機管理～」と題した講演を行いました。

日本や世界の被災場所を訪れた経験から、まず第一に自身の命を守る行動をとること、そのためには普段からの行動習慣が肝心であることが山村氏から伝えられ、来場者は、それぞれがすぐに実践できることは何かを考えていました。

また、展示では、災害や防災に関連した資料や図書が揃い、立ち寄った人は自由に手に取り、防災について学びを深めていました。

同会は、心の通い合う住みよいまちづくりを目指すとともに、盛岡の魅力発信や、市民活動の機運を高めるために活動しています。詳しくは同会ホームページをご覧ください。

HPはこちら



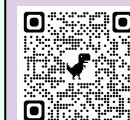
町内会・自治会アンケート調査を実施しました

盛岡市では、多種多様な主体によって構成される組織が行う地域の特色に応じた自主的な「地域づくり」の実現を目的として、令和3年度に、「地域づくり協働推進計画」を策定しました。この計画をもとに、多様な主体が連携して地域づくりを行うため、様々な事業を実施しています。

現在、盛岡市では、令和8年度から令和12年度を計画期間とする次期計画の策定に向け、検討を進めています。

時期計画の検討に当たり、より多くの町内会・自治会の皆様の意見を反映させた内容とするため、7月～8月、各町内会・自治会の会長を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果は、盛岡市のホームページに公開しています。回答の集計のほか、町内会・自治会活動を通しての主な意見を掲載していますので、ぜひご覧ください。



盛岡市地域づくり協働推進計画はこちら(広報ID: 1011432)



アンケート調査の結果はこちら(広報ID: 1001907)